

混ぜれば「ごみ」、分ければ「資源」 生ごみ分別モデル収集がスタート

問 生活環境課

☎ 49

3111 (内線247)



1月9日から、市内の2町内(西大館町内、隼人町内)約100世帯の協力を得て、11カ所の生ごみステーションで、生ごみの分別モデル収集を開始しました。

これは、平成9年に策定し、平成14年に見直した「ごみ処理基本計画」の理念である、「ごみの減量化、資源化を図ろうとするために行われるものです。」

市では、平成13年から、大館市コンポストセンター(真中地区大披)を稼働させ、事業所や学校給食から出る、たい肥化できる生ごみ、養鶏場からの鶏ふんなどを処理、コンポスト(たい肥)を製造・販売しています。出来上がった製品は、農家の皆さんを始め、多くの方々から好評を得ていますが、まだその処理能力に余裕がありません。そこで、一般家庭の台所から出る、食べ残しや野菜くず、魚の骨や内臓などを燃やせるごみとして



焼却するのではなく、たい肥化できる生ごみとして収集することにしました。

初日の収集量は、約160kg。予定収集量(300kg)を下回りはしましたが、着実に燃やせるごみは減りました。

市では、このモデル事業の結果を基に、両町内を参考にし、対象世帯の拡大など、生ごみ分別収集を検討します。

生ごみ分別収集計画の概要
収集区域

西大館町内及び隼人町内
今回は協力世帯のみの収集で、
西大館町内約55世帯、隼人町
内約45世帯、合計約100世
帯)

収集日・火曜日、金曜日
収集時間・午前10時
計画期間・1月9日～3月31日